

1. 総括

令和4年度は、「生きにくさを抱えた人と社会をつなぐハブ的な役割」を目的として、日中サービス支援型に変更しサービスを提供した。サービス変更に伴い、世話人及び生活支援員を増員して日中支援を行った。従来行っていた通院同行支援に加えて、買い物同行支援、相談支援、余暇支援などを行いながら、利用者のニーズを探った。地域課題である引きこもり支援ができるグループホームを目指して日中サービス支援型に変更したが、利用者ニーズには、加配型の介護サービス包括型の方がより適していると考え、令和5年1月から世話人の配置を4：1とする介護サービス包括型へと変更した。

また、6か月に1度のモニタリングを実施し、個別支援計画を作成、地域の中で協力をしながら自分らしく生活ができるように必要な支援をした。

2. 年間利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延利用者数	356	351	386	397	389	367	335	330	327	343	305	349	4235
1日平均利用者数	11.8	11.3	12.8	12.8	12.5	12.2	10.8	11	10.5	11	10.8	11.2	11.6

3. 担当職員

管理者 1人

サービス管理責任者 1人

世話人 12人、生活支援員 3人

4. 年間支援実施内容

健康管理

- ・症状や状況に応じて通院同行を実施した。
- ・毎日検温をして新型コロナウイルス感染の予防をした。
(発熱時は抗原検査で確認をした)
- ・本人やご家族の希望に合わせお薬を預かり、定時服薬の支援をした。

食事の提供

- ・栄養を考えたバランスの良い食事の提供を心掛けた。
- ・衛生面強化のため、布製ふきんを廃止しキッチンペーパーを使用するようにした。
- ・入居者の誕生日の日にはリクエストに応じて希望の食事を提供した。
- ・コロナ禍により、外食ができなかった為、テイクアウト等の活用により、モチベーションの維持を図った。
- ・新規GH契約者には契約時にアレルギーの有無や嗜好の聞き取りを行った。

生活支援

- ・調理、洗濯、掃除を一緒に行いながら家事支援を行った。
- ・利用者のニーズに合わせた定期的な整理整頓のサポートを行なった。
- ・家電の買い替えの同行や、設置の手伝いを行なった。
- ・利用者のニーズに沿った買い物支援を行った。
- ・世話人室で軽作業を行うことで、在宅支援として工賃がもらえるしくみをつくった。
- ・アート教室や工芸教室を開き、利用者さん同士が交流できるよう支援した。

相談支援

- ・友人関係での悩みや、生活の中で困っていることの相談にのった。
- ・世話人室で茶話会を行い、利用者さんと話せる機会を増やした。
- ・様々な日中活動（工芸やアート）に参加したことで、心理的な不安や発作が減少した。

環境整備

- ・新型コロナウイルス感染予防対策として、アクリルパネルを購入設置した。
- ・老朽化による水道修理を、必要な部屋で行った。
- ・世話人室の畳交換、照明器具交換などをして利用者さんが快適に過ごせるようにした。
- ・世話人室のキッチンを新しく改修した。

防火管理

- ・地域の避難訓練は、コロナ禍により中止
- ・年間2回の防火設備点検を行った。

5. 職員研修・支援会議

職員研修

- ・職員全体研修（虐待防止研修）

支援会議

毎月第4火曜日9：30～から世話人による支援会議を開催。

GHでの入居者の様子について共有し、意見交換を行った。モニタリング計画に基づいて、個別支援計画の策定を行った。

苦情解決・事故・ヒヤリハット報告

- ・事故防止のために、ヒヤリハット報告書は小さなことでも報告するように心がける。
- ・苦情1件（日曜日の夜の食事の有無について相談が欲しかった）

虐待防止

- ・日々の声かけ目配りにより、未然防止に努めます。
- ・研修会に参加し、職員間で情報共有する。